

このコーナーでは、進路指導や学習指導において心がけていることについて、読者の先生方から寄せられたコメントを紹介する。

## 今回のテーマ

夏休みの学習を促すため、生徒にどのような声掛けや指導をしていますか。

### ▶学習習慣・生活リズムを維持させる

中学と高校の違いを伝え、夏休みといえども家庭学習が重要だという意識付けを休み前から何度もする。また、家庭学習時間記録表を作成し、記入させる。

1年生に「1学期に記録してきたように、日々の生活・学習を夏休み中も毎日記録し、コメントも毎日書くように」と、生活リズムを大幅に変えないよう促す。また、1学期で学んだことの維持のために必要な反復学習の仕掛けを、各教科で考えてもらっている。

1・2年生は、夏休み以降の家庭学習が確立できるように、時間に余裕のある夏休み中に家庭学習のやり方を試行錯誤し、自分に合ったやり方を見つけるようにアドバイスしている。

### ▶課題や目標を明確にする

1・2年生は1学期にやり切れていない応用部分などを明確に提示して取り組む部分をわかりやすくする。とにかく、これをこのようにやればよいといった道筋をつけることで、生徒は動き始めるような印象を持つ。3年生は、自ら動ける生徒が多いが、そうではない生徒にはセンター試験対策に特化させるなど、目の前の課題に対する意識を持たせる。

3年生には数値目標を設定させ、それをクリアすることでさらに勉強へのモチベーションを高めるようにしています。そのために、設定する数値は、生徒が頑張れば届く「ちょっと上のレベル」にします。もちろん個々に設定すべき数値が違うので、担任が生徒の力を判断して決めています。

夏休み中の模試、あるいは夏休み後の模試での具体的な目標点数を挙げさせるなど、比較的近い目標を立てさせている。特に3年生に対しては、8月中旬のマーク模試での特定教科の目標点数を決めさせ、それに向かって、夏休み前半は集中させる。

### ▶生徒自身に計画を立てさせる

1学期の自分自身を振り返り、夏休みの間に解決すべき課題を発見させ、その計画を提出させて、アドバイスする。

生徒に具体的な学習項目を練らせて、それに必要な時間を逆算させます。あれもこれもやりたいという計画や、1日〇時間という計画は、計画表提出のための計画となりがちで、自分のものにならないことを話します。

とにかく時間をうまく使えるか、スケジュールをうまく組めるかがポイントだと全学年で指導しています。行き当たりばったりでは成功するはずがない。まずすべきことは、個々の目標の設定と課題の確認であり、実は最も重要なことだと伝えていきます。

学年にかかわらず、「3ム(ムリ・ムダ・ムラ)のない計画を立て、『やった!』という達成感を得るように、また強い意志を持って実行するように」と言っている。

模試の結果を踏まえて、長期休暇中に何に取り組むかを考えさせる。多くのことはできないので、教科ごとに重点項目を設定させる。

### ▶大学受験を意識させる(3年生)

3年生には「最後の充電時期であり、ここでの精進が11月以降の一番苦しい時期を乗り越えるエネルギー」と伝える。

3年生の夏休みは、最後の追い込みになります。ありふれていますが、「少なくとも学校と同じ時間帯で学習するようにしよう。授業期間中は、1日6時間の受験勉強時間が確保されていた。その授業の分を夏休みも継続しよう」などと声を掛けている。

3年生は夏休みまでに英語・数学・国語をセンター試験に対応できるように学習し、夏休み以降は理科と地歴・公民に取り組めるように、中・長期的な視点を持って夏休みを過ごすよう指導している。